諸書全書

二

隠り表紙

歌討奴小方代記

13
187
1

へ13
187
1-8

柳亭種彦作

繪本奇談双子物語

浪速　岡田群鳳堂

芸草堂
本久
小本鈔
東京帝国大学図書館
明治三年十月十日
検
187
1

いとぐらい

なにはの男女の中ふうと。
しらぬ小納言ぐ。いつる見宜ふり。むらしふり。
女の魂がくれた世界ふうと。黄泉の下ふ
ふくらぐさと。ふ伏夫の
ふしたふ。そぐ小芳埜拾遺と
いつる書る見。ふ

出給書ふ書る寸。小万太郎八い花鳥の
積ふ。いのら氏先ふ子わらば。繙くくのら
如打ばうら。書るべし。只。西紙積る長めく。
ふくくび枝葉さうの皆といへ。是遂ふと
和くくと。善とはくくる者のむのと求くあり
くく。さ清いくくふさくくくあるく紙。書ち
書いるのく。此書の本意ちれ恨庵記い

あらび来ちくざ法ふ。さくう水ふのび宗
四のくしび磬び六日ぢくりの。月代如しくく。
四くりふあくる氏合く圓ち形ふうわ
あらんう。ちらず。

丁卯孟春

栖亭
種彦

目録

一 樓ふ霊狐和琴を聞く
二 雨夜ふ計く私夫を斬る
三 侍女暗ふ茶毒を知る
四 婦人婦迫く旅僧を殺を
五 義少年竊ふ母を諫む
六 狐火雀盲の危を救く

上編尾

胷中浅計慮
正可碎心肝
懲意
何時足
憐彼
忘後
難

賊賊庄兵衛

鎌倉五郎八
ちりあくたの蓄うち
かんぢ

白拍子唐衣
鬢髪如雲双臉緋
胸中計策與形違
自負滋慾尤可惡
膽斗成盗震虐威

十歳之霊狐

汝是綾々一箇身
能依虚實
魅愚器
天通千
歳人
豈得
報徳
讐怨
勝似人

奴の小まん　一の巻

ゝのひとあむ

一

樓ふ霊狐和琴を弄く

文永の頃八天変ふいとはあらび或八黄蝶集り。
ふらふ黄なる赤とひるーがごく。又八彗星安く室宿ハ
もゝとゝるど世の変災るべーとりちあふ遠りど。北條教時別
心ーく。近岡の兵士蜂のごくゝとり。鶴倉ふこゝひ集り。
寺社民屋ふこゝいり。薬師堂の谷の亨ふ陣とーあゝめ
騒動ゝるかゝるゝ精舎ゝんじて修羅のちまゝとゝり

だらふ陰陽の表八丈をすぐる事をこかたりやまさこころも
るるをしげ わぐるく建治と改元めりくうり四海やうるく
おぐこうあと同三年くとあてい亀山の上皇（朝覲の風
車爪さぐらもひ おぐさ石清水賀茂の行幸めり
りもびいとふぐしくぐ覚りる。鎌倉あくい相州時宗執
權しと畫夜政ふこころ爪やぐねーぐ。諫の鼓苔むーく
まりとの蒲も蛍と成さり。万民樂ふさかへ月花と愛し
うりとぐとかぐりほ。その頃鎌倉よ秋田城之助泰盛
といふものあり。外祖の威と假く恐あいりひふぼり

崇趨ふあいくくり吾姓とらをしあ世の憤ぐ入の恨爪うり
ざをべ訊根のさぐじるらわとりあるる輩いつまてぐさ
してうとりる。嬉子左衛門尉宗景も足ふおくらを奢
とくらあ。神ふふ生くあ爪走りも膺とくるり疫い遊
具の薄爪つうね酒ふとうじ色ふうり。側室めをさるる
ちうふぐろよかるつる爪唐衣とるんいひる彼い元おぐくこの
白拍子ふく。糸弗のうちいいもさうるう。ぐうくふあ
あいうぐりのちり爪とびし。華のうぐふまうーを爪飜を心
ざものやさーりうつふ。百八形もをぐ見ぐく義顯ねべうる

人ごとに紙うけごろはうろう。宗景も建長寺千
部の仏供養のことに。百度ばかりとえらあぬりくの会に
うつく側室とへるし。唐衣もちの日ろう加ぶ
りしく給ふの志。わごろく一年二年さびと弘安
二年己卯八月十五日のとろうるう日頃さん風流紙
ちめ山宗景。三浦の郷田浦ゞ谷の浦鍋ふ矢泰盛
とろうの。高橋ふ毛氈まびつらね。ぐゆりゆく張燭
とのしつと酒肴のわごうろうるいひつくとへうぎ。
うく用酒意ふさしのびもべ。坂なの里女夫坂大海

の浜さう海のひうりい。ものあうふえうひうり。又有べく
ぐわうとも。ほえれが。席ふある人口ふ賞じる酒も
ゆくうけうへふ及ぶうろ。言泉唐衣をうびく。こうひと
我兄泰盛殿をうてねしのうあるうびぶ流ろろ一曲
まうくぶべしとぐうう。幽蘭と名づけてる和琴をとう
く唐衣ゞ篠のうとふかゆ。ニバをとしそうはうう
さうまうぐう。細ゆうう。ぐうくゆうをを其秋わ
宮うう雨もゆくとくゆりとゞ形天ふ湯
る合歓ふの木花。うとひとうふ月をえぬもう

小金波さう沸糸ふ風やうく水とろふり
とうさうひとべ。月えるゑ鼠ごろうふ水ひとわ。耳ふうこ
ぶけ沙屠さる。唐衣ハいらんひんん机箱ふありうる屠ふ
うぐひすハ香の花織ふさしとたうあう とうく。かさつうふ余ゑらく沙ゑ五ゑかと
女童のおびの匹しふぐせと利ハ。あと。さけびうぐら立ふ
あぐらど弘ふさとてくわる仏女ホいうるるさうやとさち
うう元ゑ巴ハは銀ふハあるわざる女喜ゑ唐衣仏女ふ
泥ーく。ぐまうらハがかるうるを和琴の音角鼓と陰
のうしふうるハ妖怪のうしとの席ふあらんとひうくふ

うつくしい人ゑしハうの銀ふこんうるざる女のうゑハうのく
ふ衣ふ唐衣うるん。つうどかうらぶ会いーーうりひうえ
うるくやうふ問ハぶ。めのうるん流ふうるじは推ふの上ハ
うるふうつくミ妙うん。うるこハ松茶ゴ答ふうる水弦し
狐うう君う焼うる和琴の音ふ沙うとうるぐす
やどうるハは銀ふいうあ。ものうといのうハうけのうハ
こ頂ふさるゑハべ。泰麿ゑじり更ふのゑ唐衣ふ琴
ハ妙とうるしふ威じうる組糸ふ吾糸いうくうハじも
うるうふづに。老狐ふもものと鳥ふもやよりが酒宴の

真似やぶる怪りめ。法くかんさん法やめろと茶士入江
安満次郎とゝもだめ。ものとさとしての主命黙止ぐらく
さらりかるらんとゝろ成唐衣ゆゝぐめかる尾狐とゝ
らふろろとゝ行ぺ。きわめくゝ崇とろとわめくゝ
かつとゝも別ふ子洲いめじと。泥とゝもぐ岩泉声と
ふろうとてゝうり畜生のゆひぼとてろうふぼどめ
やめらんぺくゝろもしくゝ生肝成さろろとし。ゝ情
ねとやうと扇ふゝ安満ぼふさしぐろと安満ぼ
力とめんぺ。やめいろんが尾の肩さんとろぺ一ゝ成ゝ

さらとゝ。あとさうけびゝとろ女ふゝとゝふる男とふね。
やぐ乳成ろうとぬ子ぐねのゝぐやまとゝ成さぐ祢
ろん。琴の音いろふやぼとゝのゝ。別ふとぐもさふ
ゝと。慈悲ふろゝけふさとけくゝさぐとゝ成めゝとと
ゝぐとゝも。岩泉入江ふやゝぐせろゝとふ歩ゝ成ゝど
ゝゝぐ又右の肩へゝゝうとわぐゝや息もさんくゝふゝ祢ゝ
脇成ぐゝひろんぺ。ゝゝぐゝいぐど。やゝうりゝの。ゝゝ成
さぐ。七年のうちふ秋田の家い別祢ん唐衣汝
やえふのへうゝいめう成失ゝり。いゝう祢成ゝゝさぐ

やうちんと。いふ声のうちうち首ちうふうちうとも。
ふーぐやうちうちう。一候の白衣ちうのぐうう
唐衣がかくんくうびくくくくくうのちふおう
あうとも武。唐衣が邪情おうしハうの老狐の一変
ううべーしーおのこに月い富山のかとふうぶけぐも谷
ふーふふ花の花のとうとうぶ。さやり花紅ふ狐ちうく
唐衣あの清ふうとうんぶ。二十ぶかうの美男子うう。
あふ風ぐうとえうのうとふちうくうちかとふ夫と狐
ぐいうくうくうくうしーかうんと。ちりひふまぐく狐ふりう。

あの安清ふうもいうくうぐあうじ摩みのうちかう。主君は
偽空ううとふ角ちうくうくうくうくうかうしぐ。歌うるかう
ぐのの毛ちうくうとくう。かぐうとふふうかうふうとく。
主君の影顔他み異うるも宜ううと白のうちふお
うひいうる元女のうくふぐおびのくしとおりひしく。彼
老狐の尾さふくうくう女のかうふかうぐう。香乃異の
ぐうくうのうくうくうしゃえ。ぐぐうくうかうひ
ぐふやのりうん。千年の老狐もつわふ滅ちるふ
いくうとう。兎角うくうとうふ狐ものけくるとうれば表紙

八犬町の上館へ路なりしるし。玉ぶちぐさ
花班石も彫城の土人い堤となりじうし。芳野のみの
うちうちもうちうちふかうちうざうぐひきぶちうちとと
むの香もうちうち。年月のうちふきぐひ居衣
宗長の鈴とり。きちのうち氏うちとも遥近
とうちゆく。ゆんみや。ぐんうちふかうち。奥づうひ
の門子番士ふいうるうぐ男氏うとふきうひうち
うちとといひうけ。十種香貝ふひうさんふうと
ど。とのうち氏うめしをとるしうちどあうさまして。

うぐうちうふも。月のうちふかうひうちふし八犬伝湯ぐうぐ
とうとうとうふ。ふうぐ氏おううくいひうとど。主君の
仏堂のとうとび千束とうちうふ。ふうぐもうふうさんうと
ど。居衣いううち赤縄のうとうとうとうみやうう氏ふひ
いいやはしうう。ひうくくのうふ。ぐのう居衣いうう房ふ
ふうく庭のやり水ふやうぐう。陸の声もゆうくく
いうう氏ううの猫氏猫うんふうがあ。ぐうが相公
のううりうひしうと仏女ふうきうふ衣後ぐうう
出ひうひいとうぐううとうと座ふうとうとうふ

宮高いらつかうれたさぐんの御めくるの表へ唐衣
ぐ紅園ふ酒くこかいじまらく風ふしとりふしとうくと
まどうむかう。枕のかとりへ子丈のどれりの御ふらと
おりしい宗景かぐうれ夢さえくこれびめやしむべし。
一りの不孤まくうの涙うにかぐわうう。枕刀を取
こぐりあくるひゆ口ふ唖し玉毒ふとり義
とぐふーぐとひくしげ。さもいるる模れおりて
ふのうりとぐめ風もいうど唐衣が黒鬢ふまふうこ。
極うり下へうげうぐし。ふ神ふひうこびめうぐう

とるし。文車の級ふうくまるふよふさうの本ふ
くしのぐる。唐衣ハ夢見しぐくふく泣もるのとど。
ことふ行れのやうりや相公ゆうしくうべとうび
居うる宮高家怒るひうるる眼ふひうるる玉ふうく目
さうふつうこうけうこと汝おがへのうやとうふふ唐衣泣
目ふひうさうこうとびおうひげうるる御ひうがめうとへ
のかうやセ文ううの御のううへいまうしがいうふし
く相公の目ふううしと向うもとうるどのうるむ敵ふ
おうんふも神うるのうう縄ふかうるる。言高ふ生

ぎさしうんもさ法うわうろうこのとぶーも。
うんなえに　観音寺の法殿ごとひぶた。月いかわろわええちろら。
うまままうろふる甚の雨ゆぶたさへ身ふうくさえ
もいうさたこうろうどぶりいうく新うあげふう
うくゆうろた相公の恩とうつうぎるい悔ども後
うく牛ざたふあふもさうふ悔といあひまぶうぐ
うとぶ。情うや此三月四月いるのさうふえぶ
あ医師のまぶふも。ゆーく懐胚ううべーものとうれど。
世うろうらめもうぶ。つまもひうたひもうたぶ子きぐ。園

きうりぶうたうたあうえとる。石仮やどうぶたさとく法明ぶ。
宮京いたぶどうゆうセ。ありあふえゆり。山のうくふ
うるしあうたぶ。雪のうぶへふ。氷の及八寒地獄の憂め
えやんと立ううしがいうふも。徒がりうふうぶうどつね
うう腹もふどやふあくぶ。ちもうとうる宮京ひ
りん。俯かあうあくぶ。ぶはしあひたわどうぶ。
畑のまぶ。海及うぶうえうとる。このと人ぶぶし落
ゆじとふ袖うううセ屋ふうり。ぶぶううぶ解あく
ありうとぶ。源夜のうとういい宗京唐衣のわうぶ。

きるものもつかりあり。

二　雨夜ふ計く私夫を斬る

次日ふいとり。宗系起船のりのふひとひとことひとりふ。
あの沸ひふ（ぽうし勢をとあとべ。汝ら者ども）

とぶくべしとさとらの八代ちひちのくはるべしと
あの沸ひふをきもべ。すべいろるとりやとをつぐ猪
のりとへどきりうとりる。宗系声をひとりふ。こぐ船室
唐衣さりしあろり汝をとんろふ。蜘蛛代勝ることを
さびくろうんといふ。出沸ひふとんとりひとと

いんくさしろうもけがさるねごろにを汝ろり一度の返
答もろくうろうくあとろ代厚まあしい被ど汝ふ野と
ろを返ふろめとを怪くのるふくくもまりとり。まろちん。
いけふくまじろんかりへども答くくや四月あろろ。
ろうとし度ふ丸代ふりひしく。いろぐ双のあと
ろろべきやとをふろく唐衣代汝ふひきをるる被
代ろんべう書とるし。若男児出生とべ代つぎをろさ
んるわとふろんしえをとと。又女児出生とべ其方が
ぬとをとべしとわろどろの ありを代ろけ。出沸ひふと

さげ。男ふあるの乃ち素只とあ上い毫ゑとかく
ゑも君の乃ち如ふやうとべきとうとびうとあとの次
の間ふ漆子のうさきんとひどさしうび。宗素つとさ
くだとうう杉戸を浪あけえとび。十三四ろる茶道
うまと茶ふとくとく居さう。宗素例のうう如さし。
け席ふ入ごうひといひけしふ。ゆとものゆるーと
とのとうろへまり。けが密陸ふ行ゆしてみくき
ふ陸わ。いけふうびいうるる敵のまとめのあや成
んと。佛かとうとり立うとべゆるさもみとうれ

居さう。西湖ひとういうとびしくーとびあ。この乃ち茶屋
只今うとうとへまかうしとえゆとべ。あうがう密陸ふ
ゆーしというふもあとべう。又ゆくとうふ児のう。
ひとうとうとうとぐあとゆうとべ。ゆげく我ふとうう
ごーとゆあうく宗景ふいひねべあ。茶乃ふつとうう
金子ふあうとく。湖金とうちあとしあうう。は茶乃
成ゆーくいうあるのあやうる。うふ後編ふつべうん。
あ湖ひとういべくく唐氏ふ書うと極うく用うちく
あのべと女児ふ産むとしうとべ。宗素ふ命ふゆる。

けゞ様とゝし。ふたんと名号うゝく主君のさゝ
らゝ氏ろゝくつゝ。ほ色うぐりうく。侍女下ゆふ事。
よぐ おゆ氏ゝが ゆゝふとゞ ゆりひゆる ゆゝ系ゆ一人
ゆの 国ゆゝし。さゝう。丸ゆ 射頼綱といふゆゆ 佐児
ゆの 郡宮といつゝく。魚ゝうゝとぐゝとゝ氏ゆゝる。
ゆの 已ゞ 低宮とゝうゝる。牧張も嵩系ゞ威ゆゝゝと。
ゝゆゝく。郡ゆ氏ゆゝゝりとゞ。めぐゆゝしゝゝゝゝ
ゞゝゝゝとゝう宗ゝゝと玉和ゆぐゝゝゆゝるゞゝ
ゝゝゝ衣もゝゝくゝ玉ゆ ゆゝゝゆぐゝゝ

前扁如小万物語　一之巻尾

小本鉄